広島県における高齢者のがん

P1-6

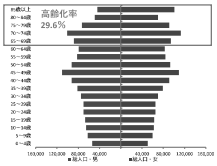
小田　崇志、柿本　智子、原上　沙織、
歌田　真依、門脇　ゆう子、杉山　裕美

放射線影響研究所　疫学部

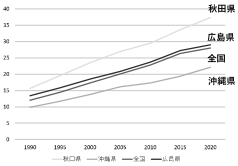
背景

第4期がん対策推進基本計画では、75歳未満のがん年齢調整死亡率減少を目指しているが、人口の高齢化を考慮し高齢者のがん対策が重要課題となっている。広島県の高齢化率は29.6%で高齢化率の推移は全国とほぼ同じである。広島県における75歳以上のがん患者の特性と受療動態について検討する。

広島県2020年人口



高齢化率の推移



出典：第８次広島県保健医療計画　第１章 総論 P9

方法

集計対象

がん罹患
全国がん登録広島県がん情報を用いて、2016-2020年に診断された患者のうち、死亡診断書のみで登録された患者（DCO：N＝1,600、1.2%）を除く129,920人

人口
1990-2020年の国勢調査人口
2016-2019年の住民基本台帳人口移動報告人口

集計

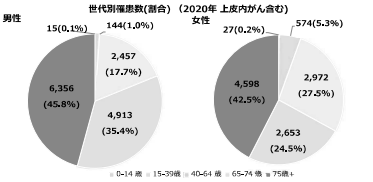
①世代・男女別、罹患数および割合
　世代・男女別、罹患数および割合の推移
②75歳未満・75歳以上・部位・男女別、がん罹患数
③世代・部位・進展度別、観血的治療の受療数(5部位)
④世代・部位・発見経緯別、罹患数(5部位)
⑤市区町村別、75歳以上罹患数割合

結果

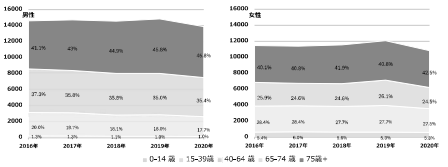
①世代別のがん患者数・割合（2020年）と世代別のがん患者数・割合の推移（2016-2020年）

広島県のがん患者(24,709人)のうち、75歳以上のがん患者は男性45.8%、女性は42.5%で男女ともに半数近くを占めていた。2016年から2020年の推移では、75歳以上のがん患者は男性6,001人（41.1%）から6,356人（45.8%）、女性4,603人（40.1%）から4,598人（42.5%）と増加若しくは横ばいであったが、75歳未満のがん患者数は減少していた。

世代別罹患数(割合)（2020年 上皮内がん含む）



世代別罹患数(割合)の推移 （2016-2020年 上皮内がん含む）



②部位別の75歳未満と75歳以上のがん患者数の比較(2020年)

2020年診断では男性は75歳以上で前立腺がん、膀胱がんの割合が高く、女性は75歳以上で乳がん、子宮頸がんの割合が低く、結腸がん、胃がんなどが高い。女性では多くの部位の罹患数が75歳以上の方が多くなっていた。

部位別罹患数・割合上位10部位（上皮内がん含む）

（↑は患者上位10部位の上の部位は色付き 罹患数が多い部位は↑）

男性	75歳未満			75歳以上		
順位	部位	罹患数	%	部位	罹患数	%
1	結腸	1,004	13.3%	前立腺	1,074	16.9% ↑
2	肺	995	13.2%	肺	952	15.0% ↑
3	前立腺	967	12.8%	胃	849	13.4% ↑
4	胃	890	11.8%	結腸	633	10.0% ↑
5	直腸	612	8.1%	膀胱	488	7.7% ↑
6	膵臓	414	5.5%	肝および肝内胆管	376	5.9% ↑
7	肝および肝内胆管	341	4.5%	直腸	252	4.0% ↑
8	食道	329	4.4%	膵臓	244	3.8% ↑
9	喉・咽頭（部位不明を除く）	289	3.8%	腎臓	228	3.6% ↑
10	膀胱	271	3.6%	食道	221	3.5% ↑
	悪性リンパ腫			悪性リンパ腫		
	その他	1,421	18.9%	その他	1,039	16.3%
	75歳未満 罹患数計	7,534	100%	75歳以上 罹患数計	6,356	100%

女性	75歳未満			75歳以上		
順位	部位	罹患数	%	部位	罹患数	%
1	乳房	1,712	27.5%	結腸	722	15.7% ↑
2	子宮頸部	745	12.0%	胃	539	11.7% ↑
3	結腸	577	9.3%	肺	520	11.3% ↑
4	肺	449	7.2%	乳房	519	11.3%
5	子宮体部	324	5.2%	膵臓	321	7.0% ↑
6	胃	323	5.2%	直腸	239	5.2% ↑
7	直腸	292	4.7%	膵臓	231	5.0%
8	甲状腺	273	4.4%	肝および肝内胆管	217	4.7% ↑
9	卵巣	230	3.7%	悪性リンパ腫	192	4.2%
10	膵臓	193	3.1%	脳のうち悪性	150	3.3% ↑
	悪性リンパ腫					
	その他	1,108	17.8%	その他	948	20.6%
	75歳未満 罹患数計	6,226	100%	75歳以上 罹患数計	4,599	100%

③世代別、進展度別の観血的治療の有無：5部位（2016-2020年）

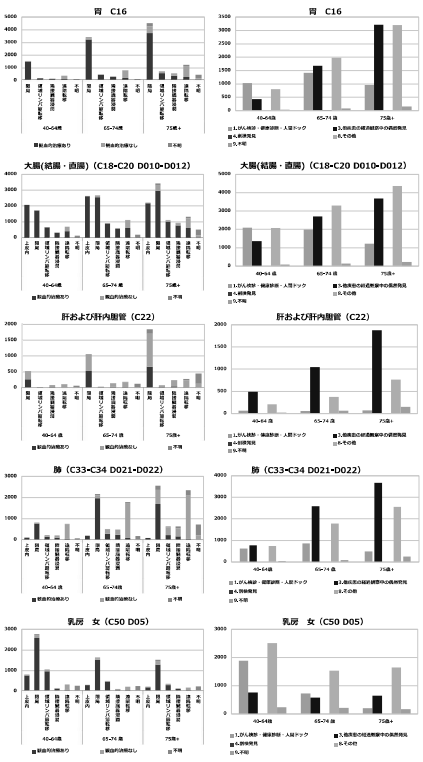
大腸、胃、乳房では、進展度に応じて75歳以上の患者に対しても75歳未満の患者と変わらず観血的治療が施行されていたが、肺、肝臓では観血的治療を受ける割合が少なかった。

④世代別の発見経緯：5部位（2016-2020年）

75歳以上では、乳房以外で発見経緯が他疾患の経過観察中での偶然発見、その他の症例が増加していた。胃、大腸、肺では75歳以上でも一定数検診・健診・人間ドックでの発見があった。

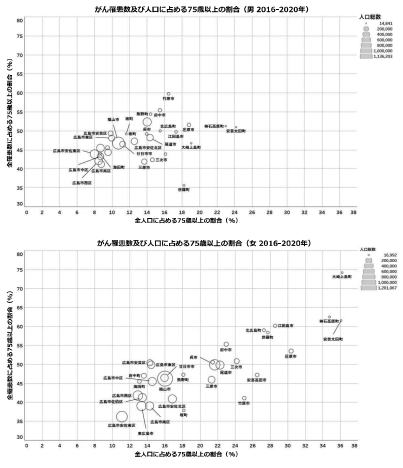
③ 観血的治療の有無別罹患数（2016-2020年診断）（年齢区分別、ステージ別、DCOを除く）

④ 発見経緯別罹患数（2016-2020年診断）（年齢区分別、DCOを除く）



⑤市町別75歳以上のがん罹患数割合(2016-2020年)

全罹患数に占める75歳以上の割合は、男では広島市やその周辺市区町村および世羅町で低く、女では県北部、県東部および島しょ部で高かった。



結論・考察

広島県では、がん患者全体の約半数が75歳以上の高齢者で、積極的な治療を受けていた。高齢がん患者への、診断・治療の意思決定や既存疾患のフォローアップを含めた医療提供体制を整えることが重要であり、特に高齢患者が多い地域では、地域医療機関との連携が必要である。

日本がん登録協議会　第34回学術集会　COI開示　筆頭演者名：小田　崇志　当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。
本研究は、がん登録推進法第18条に基づき情報の提供を受け、広島県がん登録室において独自に作成・加工した資料です。